

2015-16

年度

財団専門家グループ

委員長・副委員長

Philip J. Silvers (フィリップ J. シルバース)
(米国)

Francis F. Tusubira (フランシス F. ツスビラ)
(ウガンダ)

基本的教育と識字率向上

Maureen V. Duncan (モーリーン V. ダンカン)
(米国)

Ian W. Geddes (イアン W. ゲデス) (スコットランド)

William F. Stumbaugh (ウィリアム
Stumbaugh (エクアドル))

母子の健康

Himansu K. Basu (ヒマンス K. パス) (英国)

Catherine Noyer-Riveau (キャサリン・ノイヤー・リボー) (フランス)

Deepak M. Purohit (ディーパック Purohit)
(インド)

疾病予防と治療

Rajaratnam T. Arasu (ラジャラトナム T. アラス) (マレーシア)

Frederick W. Hahn Jr. (フレデリック W. ハーン・ジュニア) (米国)

Babu Chacko (バブー Chacko) (インド)

経済と地域社会の発展

Cecelia D. Babkirk (セシリア D. Babkirk) (米国)

Chalermchat Chun-In (チャラームチャト・チャイン) (タイ)

Jean-Claude Piers de Raveschoot (ジャン・クロード・ピエール・ド・ラベスクート) (フランス)

平和と紛争解決/紛争予防

David I. Clifton Jr. (デービッド I. クリフトン・ジュニア) (米国)

Mark Zober (マーク・ゾバー) (イスラエル)
シモーナ Pinton (イタリア)

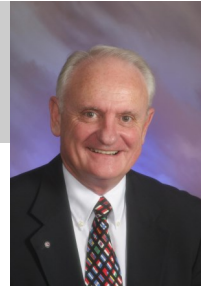
水と衛生

Kenneth W. Grabeau (ケネス W. グラボー)
(米国)

John Kevan (ジョン・ケバン) (オーストラリア)
Gedson J. Bersanete (ブラジル)

財団専門家グループの皆さま、ロータリーリーダーの皆さまへ

フィル・シルバース (Phil Silvers)



専門家グループメンバーならびにシニアリーダーの皆さま

私たち専門家グループのメンバーは、先日のサンパウロ国際大会で多くの機会に恵まれました。木曜に行われた専門家グループの研修では、積極的な出席者たちによって話し合いは大いに盛り上がり、現地視察を想定した寸劇では、ツス・ツスビラ副委員長が見事な演技を披露してくれました。金曜には、世界各地で行われた補助金76件を評価する特別任務が17名のメンバーによって行われました。

国際研究会の本会議では、専門家グループについて発表する機会をいただきました。グループメンバーであり、国際研究会の議長を担ったキース・バーナード・ジョーンズ元RI理事に心より感謝いたします。質疑応答の時間では、RRFC(ロータリー財団地域コーディネーター)の方から、専門家グループについて聞いたことがないとのコメントが寄せられました。残念ではありますが、驚くべきことではありません。私たちは専門家グループに対する認識向上の取り組みを続けておりますが、シニアリーダーの中には、依然として私たちの取り組みを認識されていない方もいます。また、新しい補助金モデルを理解するために専門家グループの支援を必要とするクラブや地区もありますが、私たちの存在が知られていないという課題もあります。

国際大会では、専門家グループに関する分科会が開かれ、地域調査に関する分科会でもメンバーが出席・発表しました。これらの分科会での発表はいずれも素晴らしく、特にビル・スタンバーグさんは、現地視察における専門家グループの重要性と、現地のクラブ・地区との好ましい関係構築について雄弁に発表されました。メンバーと現地の人たちの間に相互の信頼を築くことができなければ、率直な意見交換は困難となり、有効な情報を集めることも難しくなります。

前述のように、グローバル補助金の計画・申請段階で私たちからサポートが得られるクラブや地区は多くあると思います。地域調査、持続可能な成果、モニタリングと評価においては特に役立つサポート提供が可能になり、実際にこれまでも、世界各地の文化・言語圏で、重点分野ごとの役立つ専門知識を提供してきました。国際ロータリーでは、今後も専門家グループメンバーを対象としたアンケート調査が実施されますので、私たちの取り組みをさらに向上させるためにも、調査にご協力いただきたいと思います。

2014-15年度には、合計174件の任務(書類審査67件、現地視察67回、監査40件)が行われ、過去最高の任務量となりました。ご協力いただいたメンバーの方々に、心よりお礼申し上げます。

また、非営利組織の評価団体“Charity Navigator”によって最高評価の4ツ星がロータリー財団に与えられたことにつきましても、専門家グループメンバーの皆さまによる資金管理の取り組みが大きな力となりました。

今後、補助金モデルの評価が開始されます。この際、評価対象となるプロジェクトが、グローバル補助金の実施地域ごとにランダムで選ばれることを、提唱者が理解していることが極めて重要となります。本評価の目的は、グローバル補助金について理解を深めることであり、個々のプロジェクトを審査することではありません。また、評価対象として選ばれたプロジェクトの提唱者情報は公開されません。私は、この評価が大きな成果をもたらすものと、大きな期待を寄せております。

今後とも皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

フィル・シルバース

先日に行われたアンケート調査では多くの方からご回答をいただき、心より感謝申し上げます。専門家グループ活動の計画と実施をさらに向上させるために、今後も調査を行うことを予定しております。その際はぜひご協力いただけますようお願い申し上げます。

SMARTな目標設定を

サンパウロ国際大会中の専門家グループ研修で、「SMART(賢明)な目標」とは何かに関する話し合いが行われました。以下がその概要です。今後、グローバル補助金の計画についてロータリー会員に助言される際は、これらの点をご考慮ください。

目標(objectives)とは：目標とは、プロジェクトで期待される効果や変化です。プロジェクト計画について助言する際は、プロジェクト全体の目標を定めてから、それに基づく計画を立てる重要性を強調しましょう。

目標と測定方法(Measures)：目標は、プロジェクト全体を通じて目指すべき変化です。測定方法とは、その変化に向けた進捗を図るための基準です。たとえば、目標が「小学5、6年生の識字率向上」である場合、「教師研修の実施時間」が測定方法の一つとなるでしょう。

グローバル補助金の要件には「目標」が含まれていませんが、地域調査後のプロジェクト計画の際、最初に検討すべきことは目標設定です。目標が定まっていれば、関係者全員の足並みを揃えることも容易になります。

目標設定後は、達成に向けたステップを検討します。目標達成と関係ない取り組みや活動はプロジェクトに含めるべきではありません。プロジェクト実施段階でも、定期的に目標達成への道筋を確認し、順調に進んでいることとそうでないものを見定め、適宜調整する必要があります。

SMARTの要素

S – Specific (明確)：明確な目標であれば、達成に向けて何をすべきかについて関係者全員で共通の理解を得ることが容易になります。

M – Measurable (測定可能)：プロジェクトで生じる変化を量的に測定する方法が必要とされます。成果を具体的に把握することがポイントです。

A – Achievable (達成可能)：決められた期限までに達成できる現実的な目標を定め、関係者全員で確認するようにします。

R – Relevant (重要)：プロジェクトが実施される地域社会にとって関連性が高く、重要な目標とします。地域社会にとって重要でない場合は、再検討する必要があります。

T – Time-bound (定まった期限)：期限を定めることは、達成に向けて順調に活動することへの意欲につながります。また、設定した目標が期限までに完了できることを確認してください。

クイズ：以下4つの目標設定では、AまたはBのどちらがよりSMARTな目標でしょうか？

目標設定1

水システムを効率的に運営するために、政府職員全員の能力を高める

利用できる水と配水設備を管理、維持するために、地元政府機関の特定職員の能力を高める

目標設定2

3つの村で公衆衛生への認識を向上し、住民による衛生習慣の実践を促進する

3つの村で公衆衛生と衛生習慣を改善する

目標設定3

特定地域での下痢性疾患による児童罹患率・死亡率を低減する

水分補給の改善策ときれいな水を地域社会に提供する

目標設定4

都市の青少年グループ間の対立を緩和する

青少年平和プロジェクトを通じて、参加者間の非暴力コミュニケーションを増やす

正解

目標設定1： B

目標設定2： A

目標設定3： A

目標設定4： B

最近の現地視察



Hans-Juergen Schollさんは、タンザニアでの現地視察で住民会合に参加



Mats Bartlingさんが視察したザンビアでの水プロジェクト

私たち自身の言葉で

現地視察を通じた関係構築

ウィリアムStumbaugh、バイア・デ・カラケス、エクアドル（4400地区）のロータリークラブ



現地視察で生徒と交流したBill Stumbaughさん

専門家グループメンバーは、グローバル補助金プロジェクトの現地視察が決まったら、どうすれば現地のロータリアンや住民と最も効果的に信頼・協力関係を築くことができるか検討しなければなりません。このことは、視察の質そのものにも影響を与えます。私の場合、「四つのテスト」の要素（真実、公平、友情、全員の利益）を考えることを大切にしています。

関係構築は、現地視察の決定後、プロジェクトの連絡担当者や関係者に送る最初のEメールで始まり、このメールが、その後のやり取りと関係構築の質を決定づけるでしょう。

最初のメール内容には、日時や査察内容について明確に書く必要がありますが、友好的な表現を用いるようにし、事務的・形式的な印象を与えないことが大切です。私は、書面で自己紹介をする際、重点分野に関連する職歴や、ロータリーの国際プロジェクトにおける経験について説明します。

現地の会員には、さまざまなかたちで要件・基準を満たすための調整をしてもらうことになるため、自分たちのプロジェクトが審査されるという自覚をもってもらう必要があります。同時に私は、プロジェクト担当者から提供される情報から、相手についてよく知ろうと努力します。

現地についたら元気に振舞い、関係構築への前向きな姿勢を示します。自ら歩み寄り、自然なかたちで自己紹介することも大切です（大勢を相手に自己紹介を繰り返すことになりませんが、相手によって方法を変えて自己紹介します）。初対面でも前向きに話を聞くようにすれば、相手は自ずと私生活や夢について語るようになるでしょう。自分の経歴、学歴、ロータリーでの経験については、会話の自然な流れの中で話し、常に誠実であるよう心がけましょう。極力オープンに話すようにし、考えや気持ち、学んだことや間違えたことも伝えるようにします。また、肩の力を抜いて、専門用語の使用は避け、社会的な身分格差を意識させないように気をつけてください。

身振り手振りを生かしながら巧みにコミュニケーションを交わし、相手に真摯に耳を傾けることは、新たな関係構築にとって非常に重要となります。消極的な人には、質問をしたり、近づいて話の仲間に加えたりすることもできます。相手の尽力をねぎらい、意見に理解を示すことでも、参加意欲を促すことができるでしょう。また、相手が考えているときには急

かさずに、じっくりと回答を待ちましょう。

自由参加を奨励するとともに、プロジェクトの重要性やニーズに応えるクラブの善意について触れることで、より多くの情報を引き出すこともできます。また、プロジェクト関係者のフラストレーションや落胆には共感と理解を示すことが大



グアテマラでの現地視察の様子

切です。

最後に、現地訪問中に予定されている活動には、すべて熱意をもって参加することです。現地では査察任務に集中し、現地の人びとに細心の注意を払うべきです。また、提案や招待を積極的に受け入れることで、地域社会やその文化についてさらに詳しく知ることができます。自分にとっての快適な場所や範囲を超えて探究心を発揮し、異文化理解に努めましょう。

また親しみやすいゲストとして振舞いましょう。不機嫌そうで用心深いゲストは好まれません。「超

前ページからの続き

「私の奉仕」を実践するもの同士、全身全霊を傾けて信頼を築いてください。

注意点：文化や慣習における違いを前もって調べ、理解しておくことが大切です。必要に応じてコミュニケーションの方法を変える必要もあるでしょう。

サンパウロでの研修



サンパウロでの研修で自らの経験を発表したGedson Bersaneteさん（第4470地区パストガバナー）

ROTARY
FOUNDATION CADRE
OF TECHNICAL
ADVISERS
TRAINING SEMINAR

専門家グループのウェブサイトもご利用ください。

ロータリーのウェブサイト(www.rotary.org)のMy ROTARYに登録している専門家グループのメンバーは、My ROTARYにログインし、プロフィールのページから「ワークグループ」をクリックしてください。このページでは、各種資料、アンケートのツール、ニュースや情報をご覧いただけます。また、フォーラムへの参加、研修資料のダウンロード、「Tech Talk」アーカイブ、フォトギャラリーなど、さまざまな機能をご利用いただけます。

去る6月のサンパウロ国際大会で専門家グループの研修が行われ、18カ国から50名以上のロータリアンが出席しました。地域調査の重要性と目標設定に焦点を当てた研修では、現地視察の意見交換会について情報が提供されました。また、「持続可能性のための6つのステップ」に関するパネルディスカッションと、同じ専門分野のグループメンバー同士での円卓討論が行われました。研修に出席できなかった方は、専門家グループメンバーの共有サイトからプレゼンテーションを含む研修資料を見ることができます。

さらに、国際大会初となる専門家グループの分科会には、約100名のロータリアンが出席しました。経験豊かな南米の専門家グループメンバーが紹介され、さまざまな意見交換が行われました。

今後の研修行事

次回の研修は、9月17日(木)、ケニアで開催される第20Aゾーンのロータリー研究会に併せて実施されます。この研修には、世界中の専門家グループメンバー、ならびに同グループや資金管理に関心のあるすべてのロータリアンが出席できます。[詳しくはこちらから](#)

11月5日(木)には、トルコで開催される第20Bゾーンのロータリー研究会で研修が行われます。詳しい情報は、Eメール(cadre@rotary.org)でお問い合わせください。

専門家が必要とされる分野・地域

ロータリアンの持続可能・測定可能な補助金活動を支える専門家グループの取り組みは、ロータリー補助金の活動とともに進化します。そのため財団では、専門家グループメンバーとして次の領域でご協力いただける、さらに多くの有志ロータリアンを探しています。

- 地域社会のニーズ調査
 - モニタリングと評価
 - 持続可能なプロジェクトの立案
 - 保健分野の専門家
 - ス페인語を話せる北米・中米地域の方
 - 6つの重点分野のいずれかに該当する専門知識をお持ちで、アフリカ、東南アジア、中米にお住まいの方
- これらの募集領域・分野に該当する方をご存知である場合は、ぜひEメール(cadre@rotary.org)でご連絡いただけますようお願い申し上げます。

資金管理担当職員

メレディス・バールー

マネージャー

meredith.burlew@rotary.org

クリスチャン・ペペラ

シニア・コーディネーター、専門家グループ

christian.pepera@rotary.org

キャサリン・シューマー

監査、モニタリング・地区支援スペシャリスト

catherine.schumer@rotary.org

トーマス・ウッズ

監査とモニタリングスペシャリスト

thomas.woods@rotary.org

ラジャシュ・アナン

会計監査シニア・コーディネーター

南アジア事務局、インド

rajesh.anand@rotary.org